



# 中世瀬戸内の港湾集落をめぐる 人・モノ・情報の交流

人間文化学部 国際文化学科  
教授 鈴木 康之（すずき やすゆき）

連絡先 県立広島大学 広島キャンパス 1912号室  
Tel 082-251-5178（代表） Fax 082-251-9405（代表）  
E-mail [suzuki-y@pu-hiroshima.ac.jp](mailto:suzuki-y@pu-hiroshima.ac.jp)  
URL <http://www.mars.dti.ne.jp/~suzuki-y/>



専門分野： 中世考古学 物質文化論 博物館学

キーワード： 中世遺跡 港湾集落 港町 生産 流通 消費

## ● 現在の研究について

福山市内を流れる芦田川の河川敷に埋もれた鎌倉時代から室町時代にかけての港町として知られる草戸千軒町遺跡の発掘調査に携わり、幻の港町の姿やその変遷過程、この町を舞台にした人々の活動や物資の動き、この町が地域社会において果たした役割などを明らかにしてきました。

また、草戸千軒町遺跡をメインテーマとする広島県立歴史博物館の開設準備に携わるとともに、開館後の博物館においては、展示会・講演会・シンポジウム・学習会などさまざまな事業を企画・運営してきました。

## ● 今後進めていきたい研究について

鞆・尾道をはじめとして、瀬戸内海沿岸地域には多くの港町が存在しています。こうした港町の多くは鎌倉時代から室町時代にかけての中世と呼ばれる時代にその起源を求めることができますが、私たちが目にすることのできる港町の姿は、その後の江戸時代から近現代にかけて大きく改変を受けたもので、当時の港町の姿はなかなか明らかにすることができません。

ただ、いくつかの港町では断片的ながらも地中に埋もれた遺跡が発掘調査されており、当時の姿を復元する手がかりが得られています。今後はこのような出土資料の分析を進め、各地の港町の発展過程を追求するなかから、瀬戸内海から東アジア世界へと広がる人・モノ・情報の交流の実態を解明したいと考えています。

また、中世の人々が利用した生活用具のなかには、当時の広範な交流の結果として生み出されたものがいくつかあります。こうした生活用具の発展過程を出土資料から復元し、その社会的・技術的背景を明らかにするとともに、それらを使った人々の「思い」や「願い」にも触れてみたいと思っています。

## ● 地域・社会と連携して進めたい内容

過去の人々の活動の痕跡をたどることは、決して時代に背を向けることではありません。地域社会の歩みを理解し、愛着を深めることは、よりよい社会を創造するために不可欠な作業です。地域が抱える課題に取り組もうとするさまざまな団体・組織・企業の皆さんとの連携が可能です。

広島県地域に残る豊かな歴史資源を掘り起こし、次の世代に継承することによって、よりよい未来にむけての道筋を模索していきたいと考えています。

## ● これまでの連携実績

博物館・資料館・図書館・公民館などにおいて、中世瀬戸内における港町の姿や物流の実態、あるいは出土資料から人々の生活や道具の変化がどのように復元できるのかといったお話をしています。

また、小・中・高校教員の皆さんとともに、博物館を活用することによって授業の質を高めていく方法について検討を進めています。